

大学健康支援センターの健康相談に期待されること —2022、2023年度健康診断時アンケート自由記載解析より—

田中生雅¹⁾、田中優司¹⁾

【要旨】我々は授業環境と健康状況を把握するためのアンケート調査を行った。その中で保健管理施設の相談に何を期待するかについて自由記載での回答について、解析結果を報告する。2022、2023年度に行った本学学生定期健康診断に参加した学部生、大学院生5814名のうち、アンケート調査の主旨について文書内で説明の上同意の得られた者を対象とし、54名が「健康支援センターの健康相談に期待したいことを自由にご記載下さい」に回答し、コメントについて、KHcoder3を用いて計量テキスト分析を行った。形態素解析には意味を持つ語句を抽出し、共起ネットワークによる語句の関連性分析、および抽出語・対応分析での検討を行った。分析対象とした回答は54件であり、合計110文であった。共起ネットワークでは、38の語句が63の結びつきで表された。集計では9種類の話題①大学生生活、②体調不良時の対応、③医療機関紹介、④気持ちが落ち着くこと、⑤メンタルヘルスに関しての情報発信、⑥気軽に相談できること、⑦学生支援の継続、⑧センターの活動への感謝、⑨健康診断結果への疑問から構成された。抽出語・対応分析では、2022年度調査は「センターのアクセスや利用」「センターへの相談、お願い」「メンタルヘルス活動」に関する言葉を、2023年度調査は「体調が悪い時の対応」「健康に関する情報」に関する語句を使用する傾向が明らかになった。今回の検討では、2022年度には、学生がセンターにメンタルヘルス対応を期待する傾向が、2023年度は体調対応に対する期待や健康情報提供を期待する傾向を見ることができた。得られた学生の意見を反映し、提供するサービスを改善したい。

キーワード：大学生、健康支援、メンタルヘルス、計量テキスト分析

はじめに

2020年初頭からCOVID-19が国内で感染を拡大し、政府から感染対策の方針が順次発出された。本学では2月下旬より、部活動や卒業式等の開催中止等の各種措置が始まった。4月より全面的に学生の学内入構が制限され、2020年度前期の授業形式が従来の対面授業からオンデマンド授業に変更される修学環境の大変化があった。2021年度より、対面授業や学外での実習の機会は増えていったが、2023年度に入った現在も、一部でオンラインでの授業形式が継続している。学生のICT利用が修学で日常的なものとなる中で、心身の調子への影響が懸念され、我々は2022年度、2023年度に授業環境と健康状況を把握するためのアンケート調査を行った。本稿ではその中で保健管理施設の

相談に何を期待するかについて自由記載での回答を得たため、計量テキスト分析の解析結果を報告する。

対象と方法

2022、2023年度愛知教育大学学生定期健康診断に参加した2～4年次学生、大学院生5814名のうち、調査の主旨について文書内で説明し、同意の得られた者を対象とし、「学生の健康状況と修学環境」についてのアンケート調査を行った。2022年度調査は1811名、2023年度調査は1787名の回答を得た。このうち54名の学生（男性21名、女性33名）が「健康支援センターの健康相談に期待したいことを自由にご記載下さい」の質問について回答し、コメント全文についてKHcoder3を用いて、計量テキスト分析を行った。形態素解析には、意味を持つ語句を抽出した。固有名詞として把握すべき語句を強制抽出対象とした。共起ネットワー

令和5年12月15日受理

¹⁾ 愛知教育大学健康支援センター

クによる語句の関連性分析、階層的クラスター分析および抽出語・対応分析での検討を行った。

本研究は愛知教育大学研究倫理審査委員会の承認（AUE20210701HUM）を得て実施した。

結果

1) 形態素解析

アンケートの回答は3598名（回収率61.9%）であった。今回分析対象とした回答は54件であり、合計110文であった。総抽出語数は929語（分析に使用する語数は456語）、異なり語数は369語（分析に使用する語数は292語）が抽出された。表1に品詞別抽出例と出現回数（2回以上）を示す。

2) 共起ネットワーク

共起ネットワークでは、38の語句が63の結びつきで表された（図1）。集計では9種類的话题①大学生活、②体調不良時の対応、③医療機関紹介、④気持ちが落ち着くこと、⑤メンタルヘルスに関する情報発信、⑥気軽に相談できること、⑦学生支援の継続、⑧センターの活動への感謝、⑨健康診断結果への疑問から構成され、「不調者への対応に関する期待」「健康情報提供に対する期待」「気軽に相談できる学内窓口としての期待」「現状維持への期待と感謝」と解釈がされた（図2）。中心性は、他の語句との関係が深く、文脈の意味を考えるにあたり重要な意味を持つ語句としての度合いを示すものである。判定にもちいている中心性は、中心性の高さを語句の通過する多さで判断している。今回の検討では、「病院」「良い」「思う」「体調」の中心性が高かった（図3）。

階層的クラスター分類は、デンドログラムにより、全ての語句を対象に、より距離の近い語句を示している。今回（最小出現数3回）の分析では、次の4つのクラスターに帰結した。それぞれのクラスターを解釈し、「第1クラスター 気軽に相談窓口」「第2クラスター 相談対応への感謝」「第3クラスター 大学の生活に関すること」「第4クラスター 不調時の病院紹介対応」と名付けた（図4）。

共起ネットワークおよび階層的クラスター分類での検討では抽出した課題において、重なるところの多い結果となった。

また、抽出語・対応分析では2022年度、2023年度回答間の特徴をみたところ、結果では原点近くに布置された、「支援」「頑張る」「聴く」「気軽に」などのコード、「気軽に相談できる窓口支援を頑張してほしい」と解釈されるコードでは年度間での相違は認められなかった。2022年度調査は「センターのアクセスや利用」「センターへの相談、お願い」「メンタルヘルス活動」に関する言葉を、2023年度調査は「体調が悪い時の対応」「健康に関する情報」に関する語句を使用する傾向が明らかになった。年度毎で傾向に違いがあり、2022年度にはセンターに学生が頼り、メンタルヘルス対応を期待する傾向が、2023年度は体調対応や医療機関紹介に対する内容や健康情報への質問に関連する内容を見ることができた（図5）。

考察

本調査では健康支援センターの健康相談に何を期待するかに関する自由記載コメントの解析方法として計量テキスト分析（テキスト・マイニング）

表1 形態素解析

名詞		サ変名詞		形容動詞		未知語	
体調	4	相談	15	健康	13	LINE	3
大学	4	紹介	4	気軽	6	C	2
病院	3	対応	4	身近	2		
うつ病	2	お願い	3	大丈夫	2		
アンケート	2	生活	3				
センター	2	維持	2				
ランク	2	支援	2				
医療	2	発信	2				
学生	2	予約	2				
機関	2						
気持ち	2						
情報	2						
状態	2						
方法	2						

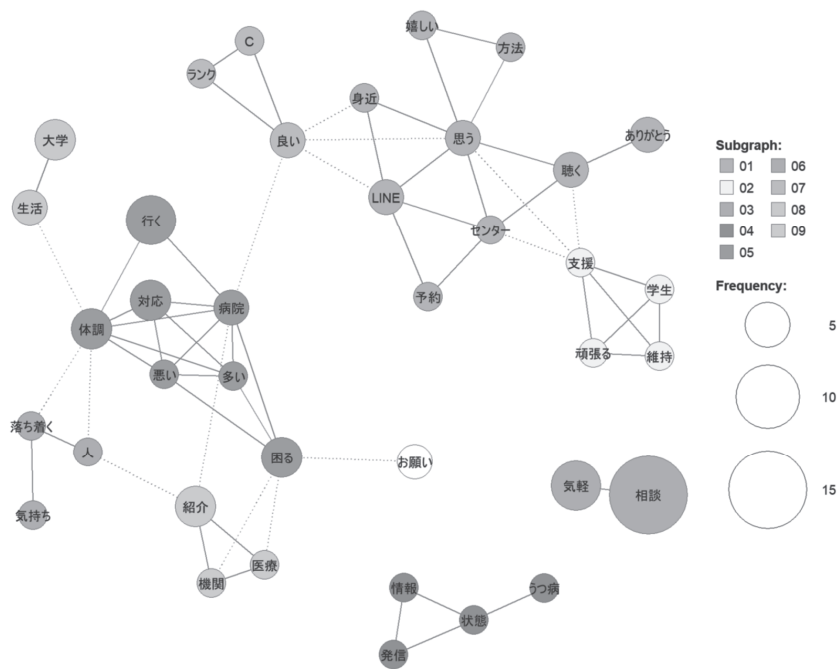


図1 共起ネットワーク (サブグラフ)

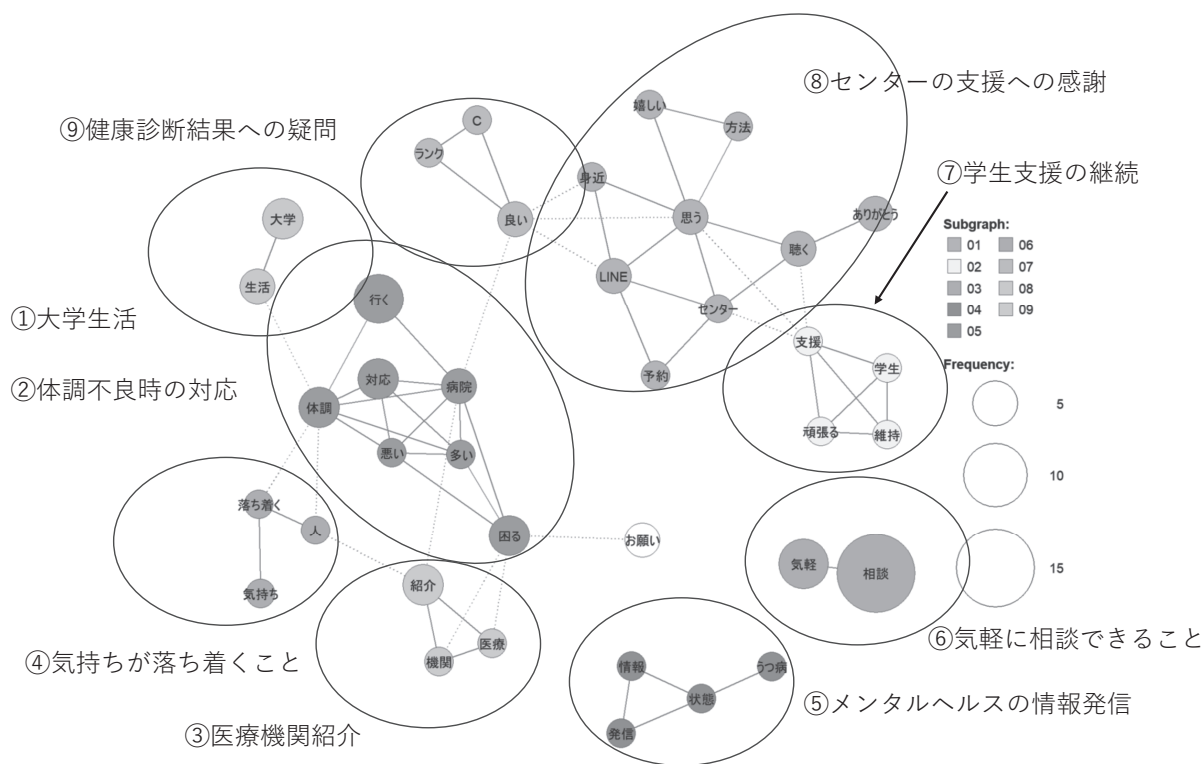


図2 共起ネットワーク

を用いた。同解析は文字データをコーディングによって数値化し、計量的分析手法を適用して、構造化されていないテキストデータから「目的に応じて情報や知識を掘り出す方法と技術」である¹⁾。例数がまとまった量で回収できるときは、解析者が人的に判断するより恣意的な解釈を除く分析に近づけることができると考える。

施設の形態の沿った効率の良い支援を提供するため、学生のニーズを把握することには大きな意味があり、これまでもアンケートにて調査し報告してきた^{2, 3)}。我々は同様の解析方法を2019年の、「健康支援センターのメンタルヘルス相談に期待されること」についての自由記載解析にも用いている。

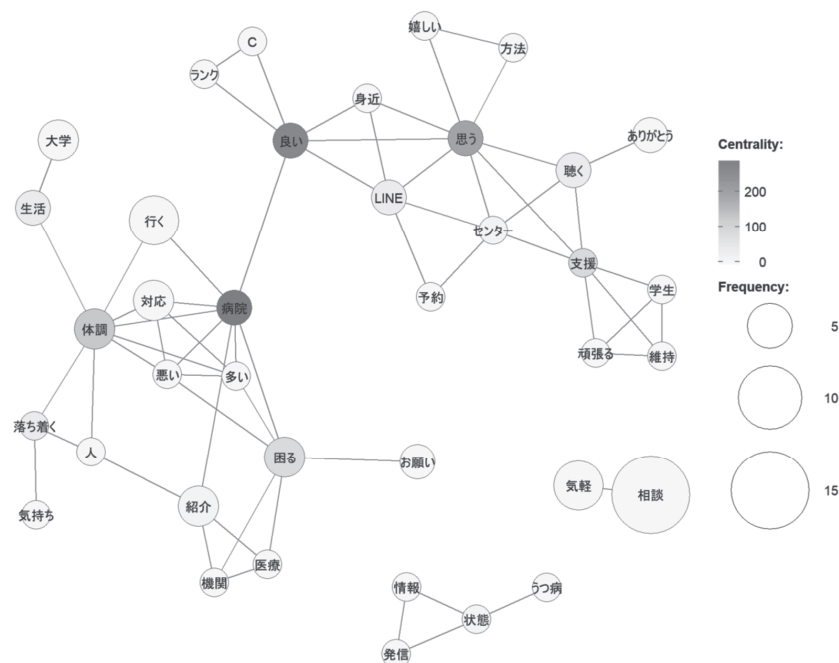


図3 共起ネットワーク（中心性）

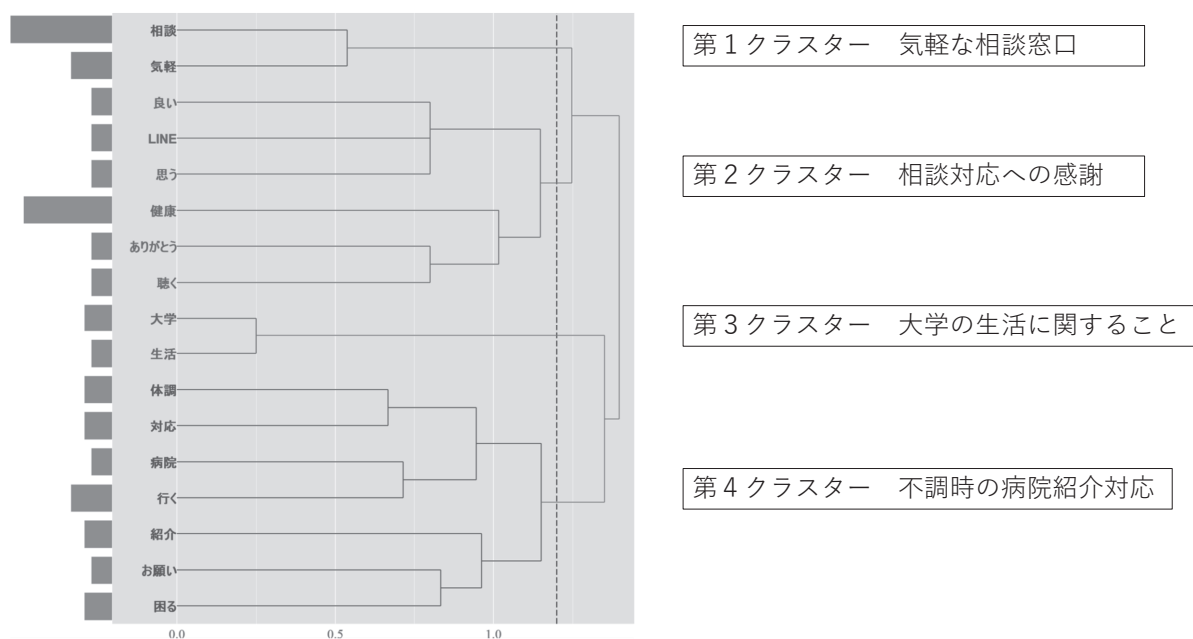


図4 階層的クラスター分析

今回の研究では、クラスター分析結果から自由記載の内容が「気軽な相談窓口」「相談対応への感謝」「大学の生活に関すること」「不調時の病院紹介対応」という話題と解釈できた。これらの話題は、大学の保健管理施設に求められる通常健康支援活動としての想定内にまとまっていた。回答全体から受け取るべき計量的で信頼のおける情報、概観としてつかむことができると考えた。健康支援活動への感謝など肯定的な意見も含まれており、スタッフの励みとなろう。2019年調査での

解析では「メンタルヘルス相談活動への期待」については「悩む人（健康状態を含む）を助ける部署としての期待」「具体的な相談と対応に対する期待」「相談方法等の周知不足」「気軽に相談できる窓口であってほしい」であった³⁾。「気軽な相談窓口」など近似する結果があり、健康相談窓口には「不調時の病院紹介」（本研究）、メンタルヘルス相談には「（健康支援センター内でのと推測する）具体的な相談と対応」（2019年調査）と相違する点もあった³⁾。身体的な不調には医療機

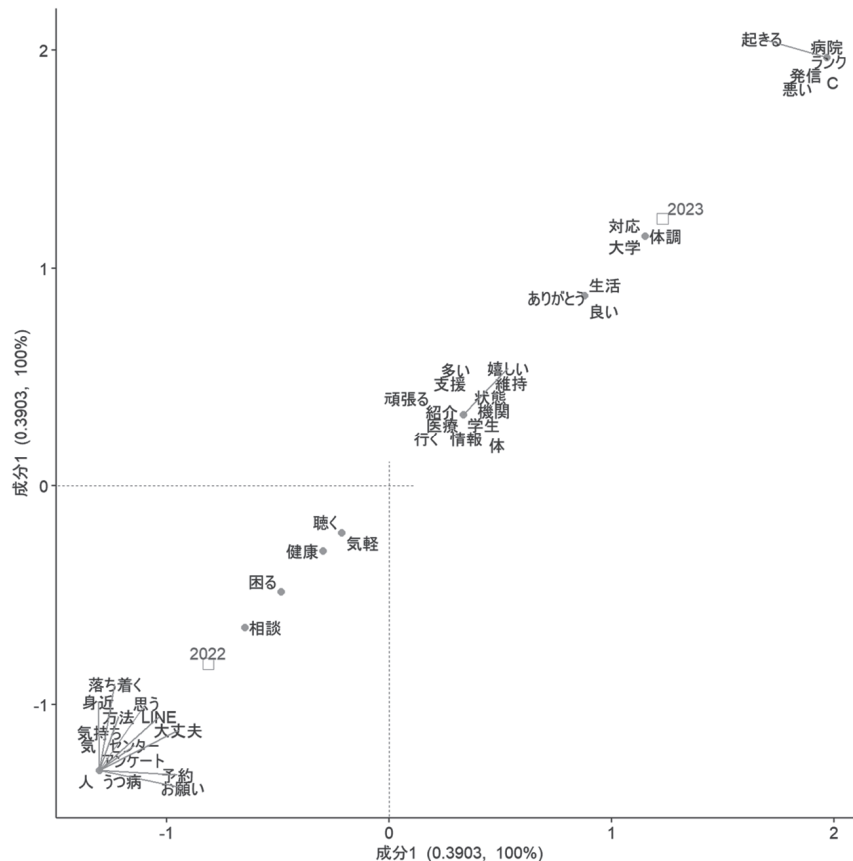


図5 抽出後対応分析

関での診察や検査が必要であり、メンタルヘルスの相談窓口には「まずは気軽な窓口として相談に乗ってほしい」という期待が見受けられた。

多量の文字データから分析で「C（健康診断評価）」「ランク」「良い」等の語句が抽出された。アンケートは健康診断時に行われており、学生は健康診断の情報について疑問や質問を記す回答があった。健診委託期間から結果や情報に関する説明が表裏に記された診断結果用紙が作成されるが、更なる情報提供が必要かもしれない。単語から焦点を絞り、原文データに立ち戻り個別に吟味すると、具体的な個別の相談が散見される。解析結果を生かして各回答者が文中に込めた「意味」を見落とさないよう、分析では原文を必ず振り返ることも重要であると感じた。また、本調査の抽出語・対応分析では、年度毎で傾向に違いがあり、2022年度には、学生が健康支援センターにメンタルヘルス対応を期待する傾向が、2023年度は体調対応や医療機関紹介に対する期待や健康情報への質問に関連する単語を使用する特異性を見ることができた。

よって、「健康支援センターの健康相談に何を期待するか」の自由記載を検討した本研究からは以下の3つの点が指摘される。①計量テキスト分

析のクラスター分析からはすでに通常の活動に想定内である期待が持たれていること、②2022年度調査には、学生が健康支援センターにメンタルヘルス対応を期待する傾向が、2023年度調査は体調対応や医療機関紹介に対する期待や健康情報への質問に関連する単語を使用する特異性がみられること、③テキストデータを詳細に検討すると、個別の健康状況についての記載がみられること。

これらの結果より、健康支援センターの活動に学生が期待することは、現在実施している活動の中で行われていることが確認できた。感謝を述べる回答も少なからず見られ、健康支援センタースタッフ一同の励みとしたい。2020年以降は、大学生活環境がCOVID-19の影響を大いに受けた。年毎に期待されていることが変化する可能性があり、2022年度調査時は学生生活環境や活動状況に制約があった時期にあり、学生は個別の相談を受ける窓口をより求めている時期であった可能性がある。

また、アンケート自由記載回答に個別の健康状況に関する報告が含まれていることが捉えられた。計量テキスト分析から原文データに立ち戻り、必要な学生に対応していくことも重要であろう。

結語

学生が「健康支援センターの健康相談に何を期待するか」に関する自由記載コメントについて検討した。学生のニーズを反映し、提供するサービスを改善したい。

本研究はJSPS科研費 JP21K02602 の助成を受けたものです。

文献

- 1) 樋口耕一, 中村康則, 周景龍 他. KH Coderを用いた計量テキスト分析実践セミナー 初級編. 2018; 株式会社SCREENアドバンストシステムソリューションズ.
- 2) 田中生雅, 田口多恵, 杉野裕子 他. 保健環境センターの学生へのメンタルヘルス支援をニーズから考えるー2013, 2014年度大学生健康診断時アンケート調査結果よりー. IRIS HEALTH 2014; Vol.13: 9-12
- 3) 田中生雅, 田中優司. 大学健康支援センターのメンタルヘルス支援に期待されることーアンケート自由記載解析よりー. IRIS HEALTH 2020; Vol.19: 9-14